

2022年9月22日所長会見 原子力・立地本部長 所感

- 原子力・立地本部長の福田です。私からもお時間をいただき、お話をさせていただきたいと思います。
- 4月の原子力・立地本部長就任から半年が経ちましたが、5月からは柏崎市に本社機能の拠点を設け、私自身も地元には駐在することで、積極的に発電所の現場へ足を運んできました。
- 頻繁に現場に入ることによって、発電所の細かいトラブルや現場の工事の進捗を、自分の目で見て、肌で感じることができました。それにより、所長の稲垣とも同じ土俵にたって議論を行うことができ、対応策の検討など、迅速な意思決定にもつながっています。
- また、現場所員はもとより、協力企業の皆さまの声なども判断材料の大きな要素とすることができ、リーダーによる現場実態の把握の重要性を改めて実感しています。
- 本社機能が発電所近隣に移転してきたことによる部門全体の成果も感じているところです。先ほど、稲垣より説明がありました工事未完了の総点検のほか、発電所におけるトラブル対応等においても、様々な成果があったと考えております。
- 例えば、総点検の対策2としてお示しした「3D画像等を用いた情報管理のシステム化」については、まさに本社と発電所が一体となり進めているプロジェクトになります。本社設計者が、現場の状況を把握しながら発電所員の困り事項を確認することで、実態に即した使い勝手のよいシステムの実現につなげることができればと考えております。

- また、6号機ディーゼル発電機（A）で発生した油漏れへの対応においても、設備の設計に関わる本社社員と、設備の保全に関わる発電所員が、ともに現物を見ながら対策を検討し、今後の24時間運転の実施に向けた取組みを進めているところです。
- 引き続き、私自身も積極的に足を運び、本社と発電所の一体的な取組みを引っ張っていきたいと考えております。
- さて、先週、原子力規制庁による追加検査の確認方針が原子力規制委員会です承されました。今回、3つの確認方針が示されましたが、当社としてもいずれも大変重要な内容と考えており、この確認方針も踏まえて改善措置活動をしっかりと進めてまいります。
- なお、原子力改革についてお知らせしてから1年が経ち、その進捗をあらためてお伝えできるよう準備を進めているところです。その際には、公表が可能な範囲にはなりますが、セキュリティ関連も含めて、取組み状況をお知らせできればと思います。
- 最後に地域の皆さまとの活動です。
- 5月以降、私だけでなく、移転してきた本社社員も荒浜の海岸清掃や地元のお祭りの後の清掃活動など、様々な活動に積極的に参加してきました。
- 地域の皆さまと一緒に汗をかき、また、「地域の活動に参加する取組みを大事にしてほしい」などのお声をいただくことで、あらためて地域の一員であることを強く実感しました。
参加した社員からも、「地域との繋がりを実感することができた」「この地域のことを知るきっかけとなった」といった声も上がっており、取組みの効果を実感しているところです。

- 今後もこのような取組みを継続し、地域の皆さまと触れ合うことで、着任時にお伝えした「社会目線」を大事にしていきたいと思います。そして、発電所の「志」である地域を愛し、地域に愛される発電所を目指していきたいと思います。

- 私からは以上です。